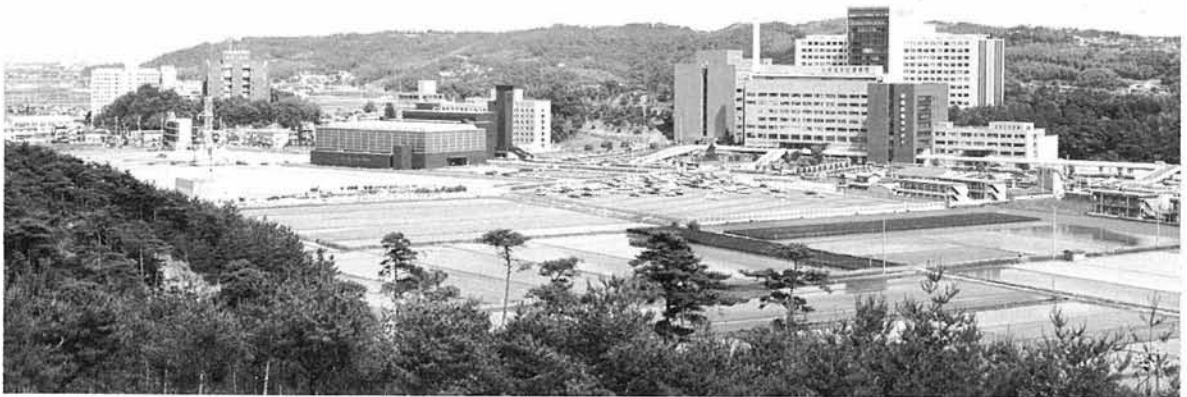




PIP

Vol.2

ETTS



川崎医療短期大学同窓会（松丘会）
臨床検査科支部会誌

皆さんお元気ですか？
おまたせしました!!

第二号

1983. 7. 1. 発行
PIPETTS

Contents

Page 3 男のロマンに生きて.....松田 信義
 4 ロボット考.....下田 健治
 5 同窓会を終えて.....井澤 宏美
 一期生 6 第二の故郷“川崎”.....箱田 京子
 第二期臨検科同窓会に参加して.....末好 孝子
 二期生 7 私の臨床検査技師像.....福島 靖之
 今日、御無沙汰しております.....鷺澤 美幸
 三期生 8 現況報告（地元に住みついて）.....比山 正治
 季 流.....井上 明美
 四期生 9 浜松より.....近藤 光
 備後の国からこんにちは.....坂田 尚子
 五期生 10 私の近況.....三浦 隆史
 港町より愛をこめて.....豊田 孝子
 六期生 11 松島の丘に寄せて.....木村多寿子
 検査技師とシェイクスピア.....川内 保典
 七期生 12 「何かよい趣味ありませんか？」.....平城 均
 忙中閑無し.....伊藤 洋
 八期生 13 社会人一年生！.....佐々木加枝
 僕の日記.....峰重 洋昭
 14 『KASS NEWS』.....〈短大より〉
〈同窓会より〉
 15 編集部より



川崎医療短期大学同窓会（松丘会）臨床検査科支部会則

- 第1条（名称）
 本会は川崎医療短期大学同窓会（松丘会）の臨床検査科支部とする。
- 第2条（目的）
 本会は会員相互の親睦を図るとともに、大学の発展に寄与することを目的とする。
- 第3条（会員）
 本会は下記の会員をもって組織する。
 1. 正会員
 川崎医療短期大学臨床検査科卒業生
 2. 特別会員
 (1) 川崎医療短期大学臨床検査科教職員
 (2) かつて教職員であった者で入会を希望した者
- 第4条（事業）
 本会は第2条の目的達成のため、次の事業を行う。
 1. 会誌（PIPETTS）の発行
 2. 会員および新卒業生の就職援助
 3. その他、本会の目的達成上必要と認められる事項
- 第5条（役員の選出、運営）
 選出
 各期卒業生より2名の代表者を卒業時に選出し、代表者会を構成する。
 代表者会において代表者内より下記の役員を選出する。
 役員
1. 支部長 1名
 2. 会計 2名
 3. 庶務 2名
 4. 広報 若干名
 運営
 本会の運営は選出された代表者により行われる。
- 第6条（任期）
 役員の任期は5カ年とする。（但し、再任は妨げない。）
 役員の欠員によって補選された者の任期は前任者の残任期間とする。
 役員は後任者が決定されるまで、その任務を遂行しなければならない。
 但し、役員が脱会（死亡など）による場合は、他の役員がその任務を代行し、速かに代表者会において、新たに後任者を選出する。
- 第7条（会計）
 本会の運営に要する経費は入会金、および同窓会（松丘会）の援助、その他の寄付金をもってこれに当てる。
- 第8条（会費）
 正会員は次の会費を納入する。
 入会金 2,000円（入会時）
- 第9条（その他）
 会員は、住所、氏名、その他異動を生じた場合は、その事を本会に通知しなければならない。
 本会則に規定のない事項については、同窓会規則を準用する。
 本則は昭和57年7月1日より施行する。

男のロマンに生きて

川崎医科大学検査診断学
 助教授 松田 信義

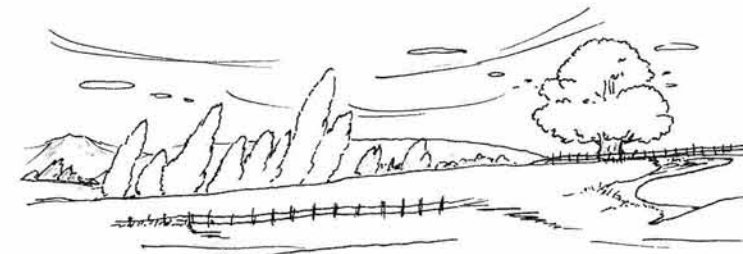
川崎学園に参りましてから2年余りが経過いたしました。これまでにない貴重な体験、勉強をさせて頂いています。困難に直面したとき、常に同窓生の諸君に助けられ、学生諸君に勇気づけられてまいりました。本当に幸せを感じ、感謝の念でいっぱいです。中検では「パックマン」、短大では「マッチ」の愛称を頂いているそうです。またこの度は PIPETTS の仲間に入れていただき皆さんとお付き合いする機会に恵まれましたことを心より嬉しく光栄に思っております。

表向きの職歴は臨床病理一筋ということになっています。昭和37年に山口県立医科大学を卒業いたしまして、同大学の臨床病理学教室（柴田進現川崎医科大学長）に入局いたしました。そこで3年間臨床病理学を研修いたしました、上田・佐々木両先生は私の先輩にあたります。それから15年間、天理病院開院の年よりずっと高橋浩先生のご指導をうけ、こちらへ赴任してまいりました。卒後を振り返ってみますに、指導者、先輩、仕事仲間にも恵まれていたのはとてもラッキーであったように思います。山口では血液形態学、血液型、天理では免疫化学的定量法、臨床化学（酵素の精製と RATE ASSAY）、外科病理、コンピュータによる精度管理と病態解析、臨床検査のシステム化などを手がけました。その時々男のロマンを生き抜いてきたように思えます。

川崎の中検では機器の更新とマイコンネットワークシステムを作り上げる仕事が必要な課題となっています。目標に向かってスタッフの力が結集され力強く、着実に前進しているのが感じとれます。「どんな素晴らしい装備がされても、なおこれを支えるスタッフが貴重な宝だ」と思える中検を誇りに思っております。人材に恵まれた短大生の教育と中検の発展のために微力を傾けて努力いたしております。

今後ともよろしく願いいたします。

(1983年5月)



ロボット考

川崎医療短期大学臨床検査科
講師 下田 健治

私は検査技師になって10年余りになります。その間検査室もずいぶん変わりました。技師学校卒業間もないころの検査室では用手法が主流を占め、自動分析器と言われるものは極く一部の分野で使われていたくらいでした。それが今ではどうでしょう。自動化されていない分野を見つけることは難しいくらいになりました。科学技術の進歩と相まって医療機器の進歩には目をみはるものがあります。今や人間の手でできることで機械化できないものはないと断言する人さえいます。その機械はたしかに人間の能力とくらべたら、いろんな意味で圧倒的に秀れた点を持っています。測定精度は高いですし、作業効率は良いし、単純作業にも文句も言わず、それも1年365日休みなしにでも働いてくれます。しかし、機械にできるというのは人間の能力の数百分の1か数千万分の1しかないのも事実です。そういった事を考えた上で人間にかわって機械の方が有利だという部分があれば、大いに使った方が良くにまっています。機械にまかせられるところはどんどんまかせて人間はより人間らしい仕事をするようにしなければなりません。

ロボットの製作者である杉原季氏は「エンジニアリングなんていうのは『実学』、つまりすぐに役立つ学問で、これに対して数学と

か物理学だとかは『虚学』、なんですね。ところが虚学の方が役に立つ。大体『実学』の方のおよぼす影響は非常に狭い範囲なんです。『虚学』の方の影響が大きいですよ。いろんな試作機を作ったりしている時にも大きな刺激を与えてくれるのは『虚学』、ですね」と述べている。これは我々が検査の方法論、それも単純な操作法だけを学ぶのであれば単なる機械人間になってしまう事に通じるでしょう。『実学』の底辺にはしっかりした『虚学』がなければ独創的なものは生み出されないであろうし、どのような世界においても生き抜いていくことは難しいでしょう。

今からの検査技師はコンピューターを駆使した有能なプロでなくてはなりません。それはあくまでも手段である事をわすれてはなりません。今後は臨床検査に関する医学を知ることだけでなく、現在起こっている種々の医療問題にも目を向け、患者の人間性の回復という同一の目標に向かってその他の医療スタッフとの交流を積極的に進めなければ検査技師は患者不在の孤立した集団となってしまうのではないだろうか。医の倫理を問われている今、医療のプロとして意見を求められることが多くなるものと思っています。

(1983年5月)



同窓会を終えて

川崎医大附属病院中央検査部
二期生 井澤 宏美

去る4月30日、岡山市内にて川崎医療短期大学臨床検査科、1期より8期までの卒業生による合同同窓会が催されました。当日は、岡山で開かれていた第32回日本臨床衛生検査学会の中日後でもあり、遠方からも多数の方が参加されました。

お世話になった先生方と共に、各期ごとにテーブルを囲み、お互いの近況、友人達の動向を報告し合い、学生時代の実習の思い出、懐かしいさまざまなハプニング、また、今後の抱負について語り合いました。そして、め

たに顔を合わすことのできない先輩、後輩の人達と交流を持つことができ、つくづく仲間が集う良さを感じました。

今回の3回目にあたる合同同窓会も、盛況なる会となり、関係者のひとりとしてうれしく思っていますと同時に、毎年、全国各地で開かれる私達の参加する学会で、同門の友と語り合う機会を持つことができればと思いますし、また、私達の同窓会が、後輩の育成、卒後教育にも少しでも役立つようになればと考えております。



第二の故郷“川崎”

国立福山病院
一期生 箱田 京子

卒業してはや7年。あっという間に過ぎてしまいました。久しぶりに見る懐かしい顔、顔、顔……。

先生を囲んで思い出話やお互いの消息を語りあっていて、ふと苦しかった学生生活に思いがさかのぼります。

覚悟していたとは言え、普通大学へ行った友達に比べるとあまりに違いすぎるカリキュラム。自分は本当に検査技師に向いているのだろうかという不安が、たえずつきまとってました。やめて行く人も一人、二人とありました。1期生なので相談する先輩もなく、暗たんたる気分になり、寮から見える夜汽車を見ては、“あれに乗ったら家に帰れる”と何度思ったかしれません。

そんな中で2期生、3期生の入学は、仲間が増えたようで心強く思ったものでした。

今回初めて同窓会に参加させて頂いて、我が子の様に育てて下さった先生や兄弟の様に一緒に学んだ後輩の方に会えて、私の心の故郷へ帰ったような気がしてなりません。

やめないでよかった。

あの時頑張ったからこそ、川崎の卒業生として今ここにいられるのだとしみじみ思いました。

ちょっぴり残念だったのは、1期生の参加が少なかったことです。今度ある時は、子供をおんぶして、両手にだっこしてでもいいですから、是非来て下さいネ。

お会い出来るのを楽しみに！

(1983年5月10日)

第二回臨床検査科
同窓会に参加して

一期生 末好 孝子

同窓会の案内がきて、出席する事にして以来、久しぶりに参加できる事を大変楽しみにして居ました。残念ながら、一期生の出席数はそれほど多くはありませんでした。でもやはりなつかしい諸先生方、二期三期の後輩達そして、初めてみる四期～八期のみなさん。こんなに大盛況の同窓会に出席でき大変感激しました。川崎医療短大臨床検査科に入学以来、10年という月日が過ぎてはいましたが、そんな事を忘れて、なつかしい顔と向かい合い夢中でしゃべりまくった数時間でした。

それにしても同輩と話をしている時は、10年前のその頃と何も変わってはいない様なのに、ふと周囲を見渡して、初めて会った後輩の姿を見るにつけ、自分の知らぬ間に、こんなに多くの、優秀な後輩達ができ、臨床検査の世界で活躍し盛り立てているのかと思うと、本当に頼もしく思えました。

今度の全国大会でも、それぞれの立場で、皆さん大変だった様ですが、これも皆さんの努力の成果でこれだけりっぱな臨床検査技師の全国大会になったのでしょうか。

私の様に、臨床検査の世界から遠去かって家庭の人となっている人もいると思いますが、こんな我々の分までも、がんばっていただきたいと思っています。

今度はいつ会えるかわかりませんが、この“PIPETTS”が、皆さんとの交流の場として、増々発展していく様に、心より応援しています。

(1983年5月)

私の臨床検査技師像

泉尾済生会病院
二期生 福島 靖之

現在、望まれる臨床検査技師とは、どのような技師なのか、私なりに考えてみました。

私は、川崎医科大学附属病院を退職後、八尾徳洲会病院、スペシャル・レファレンス・ラボラトリー(SRL)と、規模の異なる病院、検査センターを経験してきました。3～4日おきに当直があり、休日もほとんどなかった病院、体力的にも自信が付き、検査技師としての多用性(オールマイティ)を身につけた事、救急患者が運ばれた時の緊急検査(患者を目前にしながらかの対応)の能率的な処理等、いろいろ勉強をさせていただきました。また、検査センターでは、検査技術と共に知識(基礎理論)の向上、検体の扱い等、病院では接することのできないものを身につけてもらったような気がします。

さて、本題に入りますが、4・5年前、Tタイプ、 π タイプの検査技師を目指すよう言われた時期があったように思われます。T・ π の説明は略しますが、果たしてそれだけ(T・ π)を満足したらよいのか、どうでしょうか。それは、個々により当然ながら、その判断は異なってきます。しかし、検査にたずさわる精神は、技師となった以上、へだたりはないと生きていました。ところが、どうしたことか、天と地の差があったのです。考え迷い、別の世界に目を向けようと……。

さて、医療界は日進月歩で時が流れています。私の望まれる臨床検査技師とは、技術、知識はもちろん、精神的にも医療人でなくてはならないのです。それには、まず、骨身おしませ働く習慣を身につけることです。また、我々は検査に関してプロです。「当然だよ。」と言われる方もいらっしゃると思います。だとすれば、検査については、医者だろうが、上司だろうが、負けないはずです。どうですか。(ますます、きびしい世界になると思います。)

(1983年5月)

今日は、御無沙汰
しております

二期生 鷺澤 美幸

皆さん、お元気ですか。

もうすぐ、うっとうしい梅雨の季節がやって来ますが、いかがお過ごしですか。職場で、又家庭で、それぞれ頑張っておられる事と思います。私は、思いも掛けず第2回“PIPETTS”の原稿を、お願いしますと言われて、今たいへん困っております。川崎医療短大を卒業して七年目、月日の経つのは早いものですね。しばし振り返る事のなかった学生時代の事を、懐かしく思い出させてくれました。

さて、私はと言いますと、昨年結婚し、現在なんと新潟に住んでおります。(昨年、上越新幹線が開通したとはいえ、ずいぶん遠くへ来たものだ！)新潟に住んで1年、住めば都と言いますが、未だ天候、土地柄、言葉には驚かされる時がしばしばあります。只今、4ヶ月になる子供に振り回され、“ウーウー”“アアア”と、まるで動物園の様です。目まぐるしく1日が過ぎてしまい、どうして1日は24時間なのか？ もっと時間が欲しいと真剣に考えています。仕事と家庭を両立させておられる方も大勢いらっしゃると思いますが尊敬の一語に尽きます。仕事から離れ1年、皆さんから取り残されて行く様な気がして1人焦っている時がありますが、如何にして時間を作り出すか？ どうしたらご近所とうまく付き合えるか？ これが現在の私の課題です。“あ”泣いています！ もう起きたのかな。

それでは、それぞれの目標めざし頑張りましょう。再会できる日を楽しみに越後の国より皆様方のご活躍をお祈り致します。

(1983年5月)

現況報告 (地元に住みついて)

本永病院検査室
三期生 比山 正治

卒業と同時に地元の病院に就職し、5年が経過してしまいました。専門外あるいは興味のない分野は、はるか遠くに存在し、日々の仕事さえも過去の蓄積でまかなっている有様で、情報不足、勉強不足を痛感します。

当病院は「ふじ」あるいは「酒」で知られる西条（広島県東広島市）にあります。この病院の母体も酒屋で、時々強引に買わされます。広島大学の転入、空港、テクノポリス等現在注目を浴びており、地価の上昇率は、私の給料のそれよりも何倍も高くなっています。人口も現在の倍以上にはなると言われ、それを見込して銀行、スーパー、サラ金等色々な業界が進出してきています。

本永病院も中心になる診療科目をつくらうと、今成人病センターの建設に力を注いでいます。これにそなえて、検査室も職員の増員と自動分析機の申請を行ない、東芝 TBA 480 を購入してもらいました。現在8名、検査はあまり多くありませんが多種多様に富んでおり、特殊検査にも積極的に取り組みたいと思っています。

4年前から、救急当番院をひき受けるに際し検査室でも当番制をとり入れています。月に5～6回まわってきます。最初の意気込みはどこえやら思ったほど検査の伸びや手当が期待できず、また子供が産まれるので、一人で当直の縮少を呼びかけています。

医師は広島大学から派遣され、ほとんど一年で去っていきます。一年かかって築きあげた信頼関係が消え、4月からまたやり直しです。私立ですからある程度の利潤を得ねばならず、時には医師と対立し、検査室の限界を痛感することがあります。

相変わらずソフトボールに興じ、当地でリーグを作りました。その後色々リーグができましたが、こちらが正統派と自負し県大会の出場権を得ています。成績は年ごとに下降を示し、病院チームのため補強もままならず今年から B リーグに転落してしまいました。

これでも以前は、USA チームと試合したことがあります。もっともコールド負けでしたけど。

この5年をふり返れば、ある程度自分の力置かれている状況を知ることができました。仕事に目を向けるとグチが出るので、外に向かって行きましたが、どれも中途半端で、たいしたことはないと感じています。

できることなら、大病院でしっかり基礎、技術を学び資格を取得しそれから後再就職しても遅くはなかったと以前にも増して感じています。皆様方の御活躍をお祈り致します。
(1983年5月)

季 流

川崎病院
三期生 井上 明美

桜色にねむたい春

あさがお色の空はどこまでも青く

青春をすぎた紅葉は大人っぽく

春をまつ沈丁花の花蕾

季節をはこぶ人はだれ?

それは光と風と

.....あなた

(1983年5月)

お知らせ

今まで、3期同窓会世話役を小島くんと森山さんががんばってきましたが、このたび森山さんが川崎病院の末森(古米)さんにバトンタッチすることになりました。尚、臨床検査科全体の同窓会につきましては、小島くんを中心として、やっていこうと思っています。みなさんの連絡場所ならびに近況などできるだけ知っておきたいと思っておりますのでよろしく願います。

- ・川崎医科大学附属川崎病院
〒700 岡山市中山下2-1-80
Tel (0862) 25-2111
(内線) 297 (末森さん)
- ・川崎医科大学附属病院
〒701-01 倉敷市松島577
Tel (0864) 62-1111
(内線) 2427 (小島くん)

浜松より

浜松医大病院検査部
四期生 近藤 光

ピバルディの四季で目ざめると部屋の中には朝の陽射し、サイホンで入れたキリマンジャロの香りを楽しみコーヒーを飲む。AM 8:00 出勤の時間、ガレージの愛車ボルシェ 930 ターボのイグニッションキーをひねると3000ccのエンジンが一発で始動する。さあ今日も一日頑張るゾ……。

ジリジリジリ、目覚し時計がけたたましく鳴る。もう8時、朝食も食わずに50ccのバイクで出勤する。こんな変化のない毎日が数年つづいていますがみなさんお元気でお過ごしでしょうか。浜松に来て早や5年、温暖な季候でうなぎも美味しく少々太り気味です。

浜松医大病院は浜松駅より北へ約8kmの所にあり近くに三方ヶ原古戦場があります。ベッド数610床、外来患者数1日平均800人です。検査部は、医局4名、技師長1名、生化学8名(日立716, 日立702, クリナイザー H6R, オリンパス AES, ベックマン グルコースアナライザー, LKB 2086), 細菌、免疫(血清)6名、病理3名、血液、一般5名(テクニコンヘマログ8, DIFF 3, クリニラブ)、生理4名、RI 5名、採血室3名、受付2名、研究生2名、研修生1名、大学院生1名の計45名です。小生は、生化学2年半、免疫(血清)1年半を経て今年4月より血液でラクニコン社のヘマログ8(PBC, WBC, RBC, Hb, PCV, MCV, MCH, MCHC)の担当で悪戦苦闘中です。現在、浜松市内の病院に勤務している検査科の卒業生は、浜松聖隷病院の4期生久野律子さんと8期生池内直美さんと小生の4人です。全員、幸か不幸か独身で臨床検査の山と谷を歩んでいます。来年は、愛知県で臨床衛生検査学会が開催されますのでこちらにこられる方は是非お立ち下さい。

(1983年5月)

備後の国から こんにちは!

国立福山病院
四期生 坂田 尚子

皆さんお元気ですか。先日、七期全体の総合同窓会が行なわれましたが、お世話係の皆さんご苦労さまでした。卒業後あまり会うことのできない先生方、先輩、同期生、後輩達と楽しい時を過ごすことができました。少しお酒もはいて、ルンルン気分でしたが帰るまぎわに、このPIPETTSの原稿用紙を渡され一瞬にして酔いが覚めてしまいました。

早いもので今春八期生が卒業したそうですが、皆さんそれぞれの職場で活躍されていることと思います。私も数年前就職した頃の頃は期待と不安で一杯でしたが、心強い先輩のもと(ゴマをすりすぎかな!?)今では元気一杯仕事に遊びにと活躍中です。

現在の検査は機械化が進んできていますがその基となっているのは、やはり学生時代に川崎で学んだ実習の中にあると働きはじめて感じています。学生時代、真面目な学生でなかっただけによけい痛感しています。

今回同窓会に参加できなかった皆さんも、次回は参加して、近況や、仕事のことなど、いろいろ話しをしたいと思いますネ!!

また、この同窓誌PIPETTSでの楽しい報告も期待しています。

さあ、次の投稿者は、あなたですよ!!
(1983年5月)



5期生のみなさま、お元気でお暮しでしょうか、早いもので今年も PIPETTS の季節となりました。では初めに組長の三浦君の近況より……いってみよう!

私の近況

金沢医科大学病院中央臨床検査部
五期生 三浦 隆史

5期生の諸君今日は、三浦です。卒業して早や3年が過ぎましたが、いかがお過ごしでしょうか。

中には、結婚して、二世がいる人がいるようですが、他の人は、まだ寂しい日々を、おこなっていることだろうと心を痛めています。

さて私も本年3月30日結婚しました。現在、金沢のはずれ河北郡内灘町の県営住宅で妻(越智)と供に暮しています。

病院は、アパートから車で3分の所にあり、後は日本海、前は河北潟、遙に白山連峰を望む風光明媚な所です。

中検は、部長技師長を含め65名います。去年の秋血液検査部にも新しい機械が入り(テクニコン THMS/H6000)、基礎的検討も終り今やっと落付いた所です。

卒業してはや3年、皆さんも職場では、ベテランの域に入り、下からは付き上げられ、上からは打かれて大変だと思いますが、あまり主任を困らせない様頑張ってください。

今自分の持っている自信は他のスタッフがいるからで一人では、何もできないのかもしれないので。(もっともこう思うのは、私だかもしれませんが)

それでは、再会を楽しみにしてこれで終ります。

(1983年5月18日)

やりましたね、みなさん、やっぱり……では次に豊田さんどうぞ!

港町より愛をこめて…

尾道市立市民病院中央検査部
五期生 豊田 孝子

5期生友の会の皆さん、お元気ですか? 私も元気です。

突然ですが、近況報告を少しいたします。現在、私は尾道市立市民病院に勤務しています。住みなれた古巣を離れ、遅ればせのひとり暮らしを楽しんでいます。旧市民病院老朽化のため、この4月より移転増築して開院した新病院で、ベッド数240、診療科数11、設備も非常に充実しています。中検のスタッフは、現在11名、広い広い大部屋では器械の影で人間が見えないようなありさまです。私は主に生理部門担当ですが、これまた人口密度がオーストラリア程ありまして電話が鳴れば走り、患者さんが来れば走り……という状態です。しかし老い(?)も若きも和気あいあい♥楽しい雰囲気の中で仕事をしています。6期の武田譲君、8期の藤原美智子さんもがんばっておられますよ。とにかく、まあ一度遊びにおいで下さい。海あり山あり、それに食べ物のとて美味い所です……。

話は変わって、私生活では変化のあった人ありつつある人、そして全く何へんにもない人、とさまざまでしょうが……まず早や二世が誕生された皆さん、これはまあ、おめでとうございました。そして次に今年いっぱいとか秋にはどうのとか言う裏切者の皆さん!! 口ではお幸せにとっておきます。最後に残された我が仲間、晩婚友の会の同志諸君!! 世間の冷たい風に耐えながら尚一層の団結を誓い合いましょう!! なーんてね、みんな、それぞれの幸せみつけて下さい。新たなすばらしい出会いが待っていることを信じて……♥私、あわてず騒がず、あせってしつこく捜したいと思っております、ハイ。しかし、できるならば5期生の“トリ”となることだけはさけたいと思っているのですが……これから、年々同総会に出席するのが恐ろしくなりそうです。

最後に、皆さんの御健康を心から祈っています。尾道より愛をこめて— (1983年5月)

まあ、なにはともあれみなさんお元気の様子でございます、それではまた来年まで
good-by!!

松島の丘に寄せて

済生会下関病院
六期生 木村多寿子

先日の学会、同窓会の準備やお手伝いに忙しい時を過ごされた方々へ……

本当に御苦労様でした。

2年ぶりに倉敷を訪れました。卒業、就職し倉敷の町から離れてもう2年、まだ2年と色々思い巡らすことの多い3日間の滞在でした。

あの人に会ったらこう聞こう、あの人はどうしてるかなと岡山に向かう新幹線の中、考えていたのですが、いざみんなに会うとそんなに順序よくできません。“キャー元気だった?” “仕事はどう?” “結婚はまだ?” なんていっても結婚の話題の盛んなこと! 同窓会で「ベストワン」を狙っていた木村さんです」と紹介され、爆笑を受けた私は「もうすぐ結婚トップテン」の中にも入れてもらえないのでしょうかねえ。ぐちぐち……

まあ、よいですが……話をええよつと……

旅行カバンを持って岡山駅を歩いていても、旅行者じゃないんだぞ、天満屋、表町知ってるぞ!! なぜか、そんなわけのわからない気持ちがあるのは3年間過ごした岡山のことが心にしみこんでるのだらうと思ったものです。

あつという間に過ぎた3日間、第1の目的は学会だったのに同窓会のイメージが強くて困ります。なぜならば、この原稿書きを終えたら、学会の報告書を書いて提出せねばならないのですもの。久しぶりに「はんこ帳」を書くつもりでがんばります。

それでは、またの再会を祈りながらペンを置くことにいたします。

小倉からみなさんに愛をこめて

(1983年5月2日)



検査技師とシェイクスピア

佐賀県立病院好生館
六期生 川内 保典

就職して三年目の夏が来ようとしています。が昨年より自宅通勤を始め、毎朝40kmの道のりを一時間少しかけて通勤しています。そしてもう一つ昨年より、高校時代にやっていた演劇をやり始めました。というのも実の所、自宅通勤を始めたのは演劇をやるためでもあったのです。まさか仕事を持ってから、それも田舎で芝居をやろうとは思っていませんでした。ただ最初は練習を見に行くだけで、その内その劇団で役者が足りないという事になって、結局半強制的に入団する事になりました。今思えば高校時代に演劇部に入る時も、同じような手口にかかってしまったような気がします。一度ならず二度までも同じ手にかかるとは……。そんなわけで、一年は唐十郎の作品を、半年前は別役実を、そして今はシェイクスピアの作品を練習しています。公務員検査技師とシェイクスピア!? どう頭をひねってみても結びつきそうにないこの二つですが……。何はともあれ、公演予定は来年の三月。そしてそれに向けて週二回の練習。しかしまだ脚本読みの段階で、この先いったいどうなるのか見当さえつかない有様なのです。それでも芝居をやるという事で、より深く時代を見詰め、世間と交わる事が出来るように思えます。このことがこれからの自分自身にどのように影響してくるかはわかりませんが、できればこれからもずっと続けていきたいと思っています。とにかく半年後の公演を目ざして、因みに上演作品は、シェイクスピア作「マクベス」です。よろしかったら佐賀へ遊びがてら観に来て下さい。

(1983年6月17日)

忙中閑無し

山口日赤病院
七期生 伊藤 洋

PIPETTS・Vol. 2の原稿締め切り日から3週間が経過しました。編集委員の絶叫が遠くこの地まで聞えてきそうな気配です。私達7期生の間では、臨検時間、という英語にも存在しない様な時制があったのです。これは約束された時間を守らない人に対して投げかけられる言葉で、それとともに、冷たい白い目がおまけに付いていたものです。ただ当時の7期生は、ほとんどの人が臨検時間を厳守していたので、誰れも白眼はむけなかったはずなのです。いずれにしても今の私は臨検時間、ぐずぐずできないのですよ。先に進みましょう。こちら山口市は西の京と言われ、まわりを山々で囲まれた落ち着いた、閑静なところ。市の中心部には、パークロードという木々や、花におおわれたメインストリートがあり、色々なレリーフ、そばにはレンガ色の美術館、サビエル教会と、かっこうのデートコースとなっております。この道を彼女と歩きながら愛を告白すると、たいてい良い返事が得られる様で、この場合必ずサビエル教会の尖塔にある鐘を見つめながら、彼女の右肩に手を優しく置いて話をするべきなのです。ぜったいに。それに、夕やみせまる、6:45分という状況設定が加われば、まず完べきなのです。よそで意のかなわぬ人は是非、当地でためして下さい。

こういう考察は書きだすと何ページにもなるので止めますが、短大の教育は、ここにも生きている様ですね。ただ考察の対象が自分と違いますが。学生時代は、多くの目標が設定できて、それを乗り越える喜びの様なものがありましたけれど、今、技師となり、社会人となってからは、目的意識を持って生活することの難しさを感じております。いずれにしても、何か目標を見い出して、充実した毎日を送れる様にしたいものですね。

(1983年6月5日)

「何かよい趣味、ありませんか？」

関西医科大学附属病院
七期生 平城 均

「趣味は何ですか」と聞かれて即座に自信をもって「〇〇です」と答えられますか？

そう答えられる人がうらやましい。

以前は「山登り」という趣味がありました。が、しばらく遠ざかっていたせいか、又始めるのがおっくうでたまらない。

「山登り」を始めたのは、18才の時から。その頃は、体力もあったし時間もあったから100日前後は山に入っていた。鈴鹿山系をホームグラウンドに南、北アルプスの峰々を渡り歩いた。友達に「どこがいいのか」と尋ねられたが、こんな愚問に対してはいつも「君にはわからないよ」と答えておいた。本当にどこがよかったのか自分でもよくわからないが、静かなことと爽やかなのが気に入っていたように思える。

「山登り」を廃業しようかと思った原因の一つには、体力のことがあるのかもしれない。30才の声を聞く年になると無理がきかなくなる。最近つくづくそう思うようになった。体力に合ったコース選びも考えたが、昔の栄光が忘れられないので、あまりみじめな姿を想像するのも恐ろしい。

そして、今住んでいる所自体、山の中だから……。

そんな訳で今、新しい趣味なるものを探している。見合いの席で「趣味は何ですか」と聞かれた時にあてないため!!

ようやく我が村では田植えが済み、茶の刈り取りに忙しい。少し前まではうぐいすの音が聞こえていたのに、今では蛙が主役である。そして梅雨。梅雨が過ぎ、螢やこの地を南限自主地とするスズランの花がみられるのが待ち遠しい。

(1983年5月18日)

お知らせ

卒業2年目、ちよつとは技師らしくなったかな？
七期生諸君!!

昨年同窓会は連絡が一週間前という悪条件にもめげず、30余名もの方々に集まっていただき、ホントに感激です。

さて、今年もこりずに同窓会を開きますゾ!! 今年少し趣きをかえて、八期生と合同でパーッとやりたく思います。一応、10月9日(日)を予定していますので、皆さん、ヨ・ロ・シ・ク!!

社会人一年生!

川崎医科大学附属病院
八期生 佐々木加枝

短大を卒業し、社会人としてスタートしてはや1ヶ月。とまどいと不安の中(私にはその様なものはなかったと回りの人は言いますが…)無我夢中の1ヶ月であったように思えます。まだまだ学生気分のぬけない私が、おそれおおくも“PIPETTS”の原稿を書くなどとは思ってもみませんでした。やっぱり短大を卒業したんだなーと、実感しています。

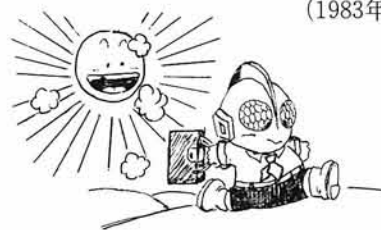
八期生はみんな、故郷に帰りたい帰りたいと言いつつ、なんと岡山県内に就職した人の多いこと多いこと。検査技師も就職難の時代をむかえたのだなーと思いつつ、そこはのんびり屋の八期生。あせりの中にも、みんなどっしりと腰をすえ、待ち続けてやっと就職にまでこぎつけました。みんなその職場で各々の仕事に打ち込んでいるようです。

川崎医大附属病院に残った17人は、そのうち12人が化学に配属され、化学もにぎやかになり、やがて八期生の時代となることは確実という話もちらほら。覚悟はつけていたはずの私も、ピペットを持つ手が震えて……。でもそこはプロとなる身。こんなことではいけないと自分にむち打ってがんばっています。

10月には同窓会を開こうと、卒業して2ヶ月足らずですが、今からみんなに会えるのが楽しみです。私たち八期生も、PIPETTSに早く結婚第1号の記事が載せられるようがんばろうと思います。(もう予想はついてますが…)

最後に、私たち八期生56名、どうぞよろしくお祈りします。

(1983年5月)



僕 の 日 記

倉敷成人病センター検査部
八期生 峰重 洋昭

4月1日 天気 雨

今日、初出勤!

この記念すべき日にあいにくの雨で、出鼻をくじかれた思いだった。さらに悪いことに、昨日からちまたの流行ののって激しい脱水症状に見舞われ、体にもさっぱり力が入らなかった。とはいえ、はうようにしながらも、希望に胸をふくらませて検査部へ。

4月9日 天気 晴れ

1週間働いて……何故だか判らないけれども、疲れた——。

僕は、自分がこれほど繊細であることを今日まで知らないでいた。

4月25日 天気 晴れ

初めての給料日。うれしかった。

まだまだ先輩の方々に迷惑のかけ通しで、果たして本当にいただいているものかと思いましたが、気にせずにもらってしまった。

5月2日 天気 晴れ

社会人となってはや1ヶ月が過ぎた。

僕は、検尿室で毎日おしっこと奮闘している。当センターの検査部に勤務している人数は11人と少なく、川崎医大・中検の様子とは大分異なっているが、ここの雰囲気にも徐々に慣れてきた。しかし、まだ学生気分が完全には抜けきらず、実習をしているような感じで働いている。(今思うと、学生時代の実習はすばらしくハードであった。)

創刊号では、先輩の皆様は結婚のことを書いておられましたが、やはり興味のあるところ。8期生では誰が1番になるのでしょうか? ちなみに自分にはしんがりをつとめるつもりであります。

それでは、皆様に同窓会でまた会える日を楽しみにして……。

(1983年5月)

<短大より>

臨床検査科卒業生の皆さん、今年も暑さにもめげず、日夜、業務にあるいは家事にと励んでおられることと思います。

川崎医療短大臨床検査科も創立満10周年を迎えたこの春、第8期生55名を送り出し、卒業生総数351名(2名死亡)に達し、地元はもとより、沖縄から東京までの各地にわたる130施設で活躍されております。(別表)

4月から臨床検査科として就職担当教官をおくことになり、私(山口)が担当することになりました。今まで、担任が窓口となっていましたが、担任は毎年変わるの、窓口として1人専任をおいた方が対外的に処理しやすいということです。つきましては、担任や、また同窓会の方々の力をお借りして、現在の就職先と緊密な連絡をとり、なお新しい就職先も開拓しなければならぬだろうと思っていますので、後輩のために就職情報をお寄せ下さる様御願い致します。また、満10周年という節目に当り、今後の教育、就職などの参考にしたいと考え、卒業生諸氏の御意見を伺いたいと思います。近くアンケートをお願いする予定ですので是非とも御協力下さる様御願ひしておきます。

短大・臨床検査科の近況

- ① 助教授是澤俊輔先生が高知医科大学中央検査部に転勤のため3月退職されました。
- ② 小郷正則先生が講師に昇任されました。
- ③ 4月臨床検査科第11期生50名が入学し、担任は下田健治先生です。
- ④ 短大では栄養科・医療秘書科通信教育課程が増設されました。
- ⑤ 短大事務長佐藤平一先生が退職され、学長補佐、事務長事務取扱として岡田政敏先生が新たに着任されました。

川崎医療短期大学臨床検査科教授

山口 司

臨床検査科卒業生地域別就職状況(1~8期)

府 県	施設数	人数	府 県	施設数	人数			
中 国	岡山(岡山市)	14	51	九州	鹿児島	5	7	
	(倉敷市)	9	94		沖 縄	1	1	
	(その他)	9	12	近 畿	兵庫	6	6	
	広島	21	30		和歌山	1	1	
	山口	8	15		大阪	7	11	
四 国	島根	8	13	中 部	大 阪	1	1	
	鳥取	3	3		福 井	2	2	
	香 川	徳島	6	6	石 川	1	1	
		高知	3	3	長 野	1	1	
		愛媛	2	8	岐 阜	2	2	
九 州	福岡	佐賀	5	6	関 東	神 奈 川	1	1
		大分	2	3		東 京	1	1
	熊本	宮崎	1	1	所 属 な し		57(42)	
			1	1	合 計		130	349

(58. 4. 1現在)

<同窓会より>

1. PIPETTS 投稿規程について……
各期卒業生より自由に投稿をお願いします。なお、内容は自由ですが、原稿用紙に2枚以内とし、題・所属・第何期生・氏名・月日を忘れずに書いて下さい。
2. 次回の合同同窓会は、同窓会ができて10年目にあたる1985年10月の予定にしています。
3. 卒後教育について上田主任教授よりいろいろアドバイスをいただき、支部内に教育担当者(山元、井澤、平井、三宅、河口)をきめて、もっか検討中です。
4. コンピューターで同窓会名簿が作成できるようになりました。同窓会と皆さんとの連絡がスムーズにとれるようにする

ため、転職・結婚された方はどうか同窓会宛に挨拶状を送って下さい。

(連絡先)

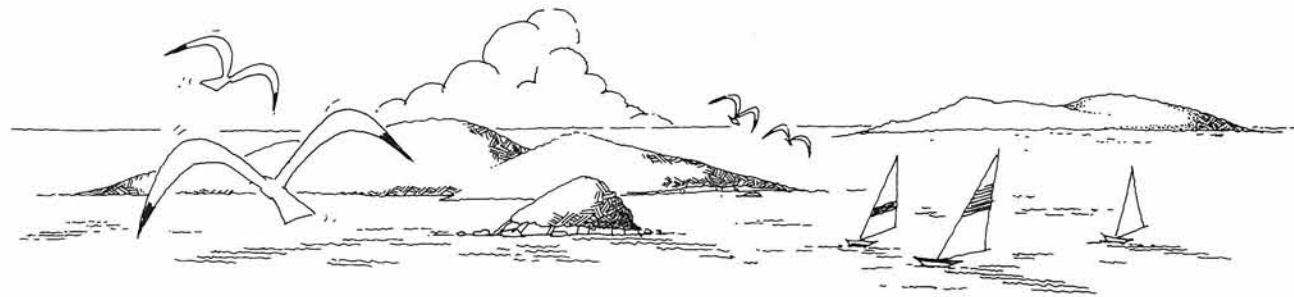
○小郷正則 勤務先 ☎(0864)62-1111
内線 3037

自 宅 ☎(0864)62-2827

○各期卒業生の代表者

- 1期生：小郷 正則 山元しのぶ
- 2期生：三宅 康之 井澤 宏美
- 3期生：小島 健次 森山 知子
- 4期生：高松 邦樹 瀬島 知子
- 5期生：本廣 里次 平井いずみ
- 6期生：河口 勝憲 猪平 睦美
- 7期生：泉 礼司 橋本 典子
- 8期生：河口 豊 吉田 恵美

○支 部 長：平井 紀之(2期生)



編集部より

昨年の“PIPETTS”創刊号もなかなか好評のうちにはや1年が経ち、また第2刊の発刊の時期となりました。

昨年の経験を生かし、編集部にも新メンバーが加わり、スムーズに発刊の運びとなるはずでしたが、なかなかどうして、編集というのも難しいものです。

PIPETTS 第2刊を楽しみに(?)して下さる皆様の為に、どうしたらよりよいものができるのか。

NOW く、もっと楽しく——といいつつ、かきまわしてばかりいるH嬢。思想は一貫せねばならぬ——とがんごなO氏。その中に立っておろおろする編集部長M, etc.

ハードな仕事を終え、夜10時を過ぎるまで、お腹のなるのをがまんしながら頑張った編集会議。

毎年でも同窓会を開き、それぞれの近況を伝えあいたいところですが、なかなかそうもいかず、“PIPETTS”のわずかなスペースで雰囲気だけでも味わっていただきたく、各期各方面の方々に原稿をお願いしました。半ば無理矢理に原稿をたのまれた皆様、さぞかし、ご迷惑だったことでしょう。

編集部のとりたてに速達で原稿を送って下さった方、はげましのお便りを同封して下さった方 etc…。忙しい中本当にご苦労さまでした。

こうして、ここによりやく“PIPETTS”第2刊ができあがりました。

今後とも、この会誌が皆様の情報交換の場として、あるいは会員相互の親睦を深める場として、お役に立てば幸いです。

尚、掲載にご協力下さった松田信義先生、下田健治先生、ならびに山口司先生に心からお礼を申し上げます。

- 編集委員
- 三宅 康之(二期生) 協 力
 - 小郷 正則(一期生)
 - 河口 勝憲(六期生) レイアウト
 - 橋本 典子
 - 猪平 睦美()
 - 亀田 匠枝()
 - 泉 礼司(七期生)
 - 橋本 典子()



1983年7月1日 発行

編集発行 川崎医療短期大学同窓会 (松丘会)
臨床検査科支部
〒701-01 倉敷市松島316番地

印刷 西尾総合印刷(株)横井支店
〒701-11 岡山市横井上90

PIPETTS
Vol. 2